

## 『標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学 第2版』正誤表

このたびは『標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学 第2版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

第1刷（2026年2月15日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2026年2月24日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	86ページ 19行目 1) 純音聴力検査(気導聴力検査・骨導聴力検査)	対象は乳・幼児から高齢者まで幅広い。	対象は幼児から高齢者まで幅広い。	2026/2/24
1	86ページ 下から6行目 2) 自記オーディオメトリ	持続音と連続音の検査結果の組み合わせから、	断続音と持続音の検査結果の組み合わせから、	2026/2/24
1	90ページ 本文下から7行目 1) 聴性脳幹反応(ABR)	頭頂部緩反応	頭頂部反応	2026/2/24